

# 九十九里浜の ハマグリ資源管理について

九十九里漁業協同組合  
貝桁網船団 尾高 孝二

# 地域漁業の概要



図1 九十九里浜の位置

## 【九十九里浜】

- ・ 海岸線の長さ: 約60km
- ・ 江戸時代には, 地引き網で繁栄



図2 漁協の位置

## 【漁協の概要】

- ・ 平成22年4月に合併
- ・ 組合員数: 395名
- ・ まき網, 貝桁網, 刺網, 釣りなど

# 漁業の概要

## 【貝桁網の漁法】

- ・底びき網の一種
- ・漁具(まんが)を2個使用
- ・ウインチでワイヤーを巻き上げて漁具を曳く

## 【漁獲対象】

ハマグリ, アカガイなど

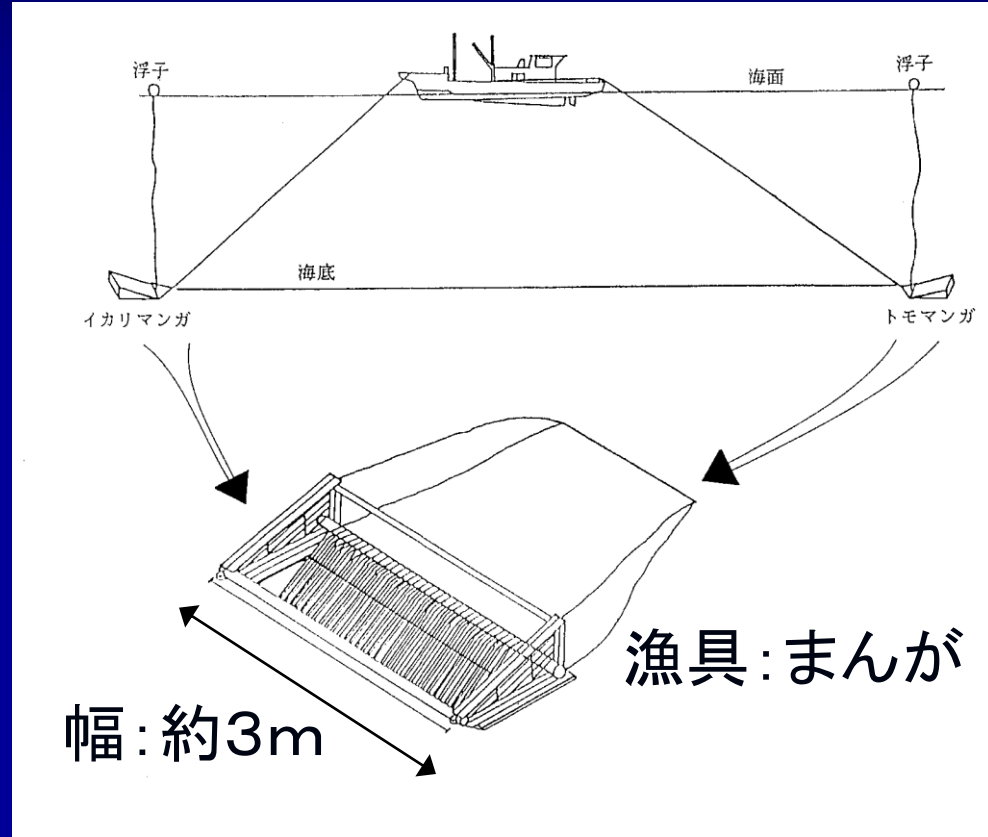


図3 貝桁網漁法



図4 漁獲物(左:ハマグリ, 右:アカガイ)

# 片貝漁港の水揚高

表1 平成23年度 片貝漁港の水揚高(属地)

	数量		金額	
	(トン)	(%)	(億円)	(%)
鮮魚類	19,251	98	7.2	74
貝類	309	2	2.5	26
計	19,559	100	9.7	100

鮮魚類：主にイワシ類(まき網)

貝類：主にハマグリ(貝桁網)

水揚量が少ないわりに金額は多く、地域にとってハマグリは重要

# 九十九里漁協 貝桁網船団

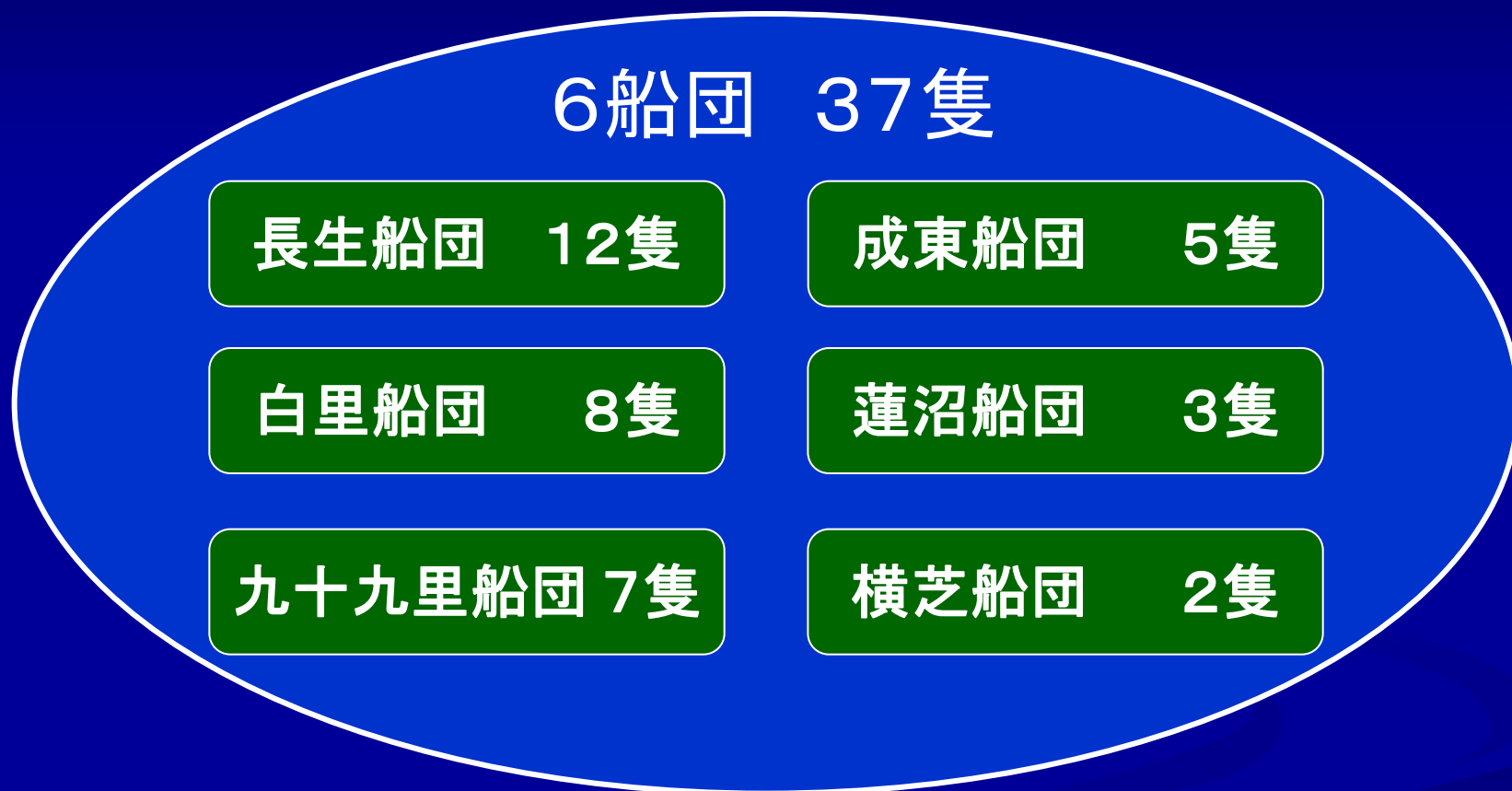


図5 貝桁網船団の構成

# 九十九里漁協 貝桁網船団

## 【主な活動】

- ① 操業や資源管理に関する協議・研究など
- ② 「九十九里地はまぐり」のブランド化
- ③ 地元の産業まつり参加など



図6 千葉ブランド水産物の認定記事(読売新聞)



図7 産業まつりの様子(九十九里町)

# 九十九里地域の貝類漁獲量

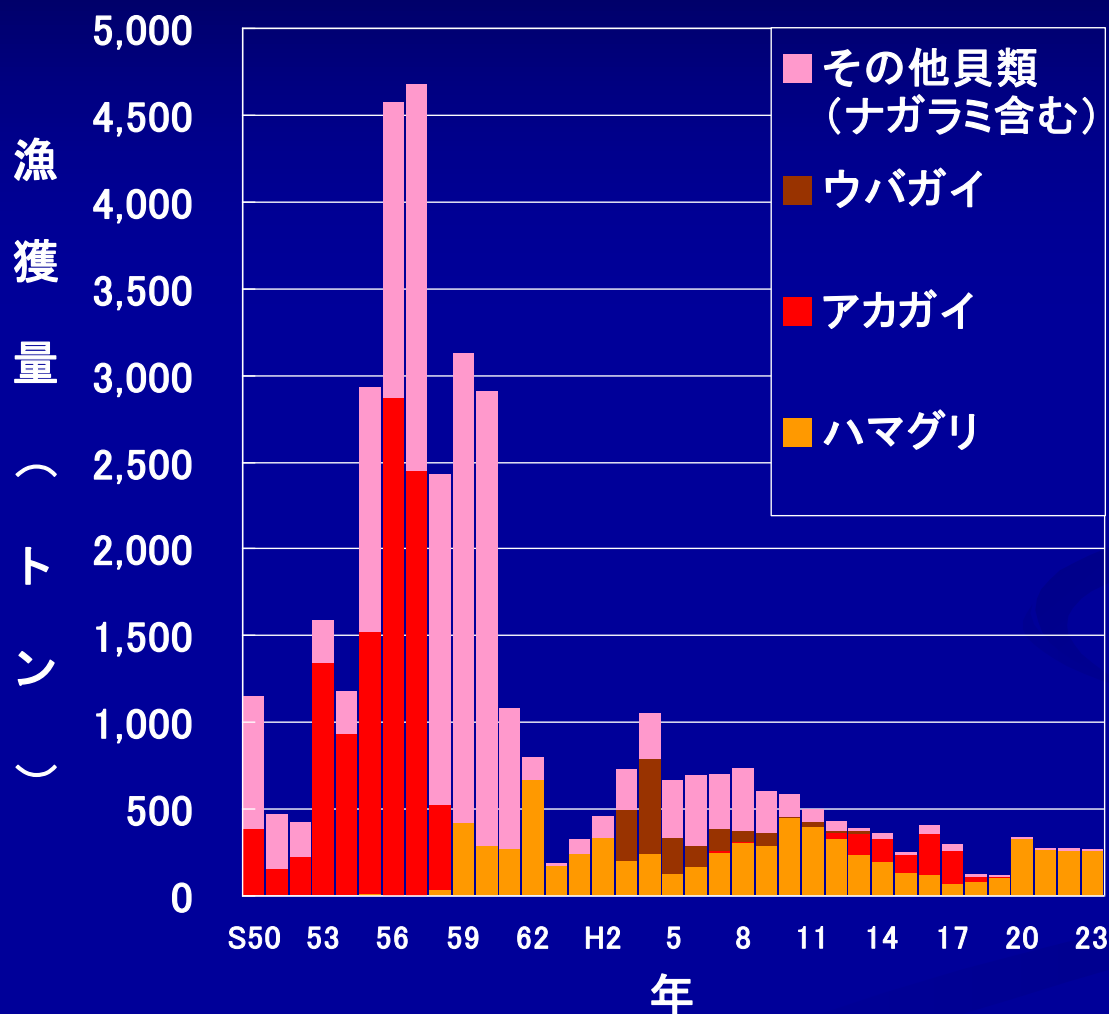


図8 九十九里地域の貝類漁獲量の推移

アカガイを主に  
漁獲していた

- 昭和57～59年,  
アカガイの大量死
- 昭和60年代の  
ナガラミ減少

その後, 主に  
ハマグリを漁獲

# これまでの資源管理

## ■ 水揚げプール制の共同操業

昭和49年から一部地区で共同操業が始まり、昭和60年頃に九十九里浜全体に定着した。

## ■ 漁獲管理

- ・出漁隻数を決め、週1回程度の操業(船団ごと)
- ・資源状況に応じ、1日の水揚量(上限)を設定
- ・小型貝(殻長5cm以下)の再放流

## ■ 母貝場の造成

平成6年から産卵母貝用にハマグリを放流し、放流場所を禁漁区にした。

# 九十九里貝類漁業者検討部会

共同操業，母貝場造成などの資源管理をしているけど

- 稚貝発生の変動(場所・量の変化)  
地先レベルでは，取り組みに限度がある
- 九十九里浜全体として，広域的な資源管理へ



平成11年に「九十九里貝類漁業者検討部会」を設立

# ハマグリ of 採捕

- 九十九里浜では、  
春～夏に波打ち際で、  
「腰カッター」という漁具で、  
ハマグリを採捕しています。  
(小型貝を混獲)



図9 漁具「腰カッター」

# 小型貝の資源管理意識の高まり

- 貝桁網の漁獲量の減少が続く(平成11年以降)
- 腰カッターによる採捕量の増加は、資源に影響するのではないか？ (危機感の増大)

平成16年に九十九里浜北部で稚貝が大量発生！  
→ 「稚貝を保護し、有効に利用したい」と意識高揚

<解決に向けて>

腰カッター採捕者も含めた

- ① ハマグリの資源管理の実践
- ② 採捕実態を反映した新たな漁業秩序づくり

# 資源管理の実践

## ① 採捕期間の統一

### 【漁獲圧の増加傾向】

- ・ 各地先で採捕期間が異なる  
(となりの浜より期間が短い)
- ・ 大潮の干潮時間のみ採捕



もっと、採捕期間を長くして欲しい！

表2 腰カッターの採捕期間

地先名	採捕期間(旧)
長生	4/ 1 ~ 5/31
白里	6/ 1 ~ 8/31
九十九里	4/ 1 ~ 9/30
成東	5/ 1 ~ 10/15
蓮沼	4/ 1 ~ 10/31
横芝	4/10 ~ 9/30

# 資源管理の実践

## ① 採捕期間の統一

### 【小型貝保護の必要性】

- ・ 4月は殻長5cm以上の貝少ない
- ・ 8月から稚貝が本格的に増える

### 【安全面からの必要性】

- ・ お盆を過ぎると、土用波
- ・ 台風も多くなり、危険

・ 昔からの慣習  
・ 立場の違いによる主張の隔たり

粘り強く、説明

平成21年に採捕期間を5/1 ~ 8/15に統一

# 資源管理の実践

## ② 資源保護区域の設置

### 【小型貝保護の必要性】

- ・ 波打ち際には、大きい貝は少なく、小型貝が多い
- ・ 波打ち際に保護区域がなかった

### 【大反対の意見】

- ・ 採捕期間がある上、区域まで制限されては、採捕量が減る

平成21年に資源保護区域を設置

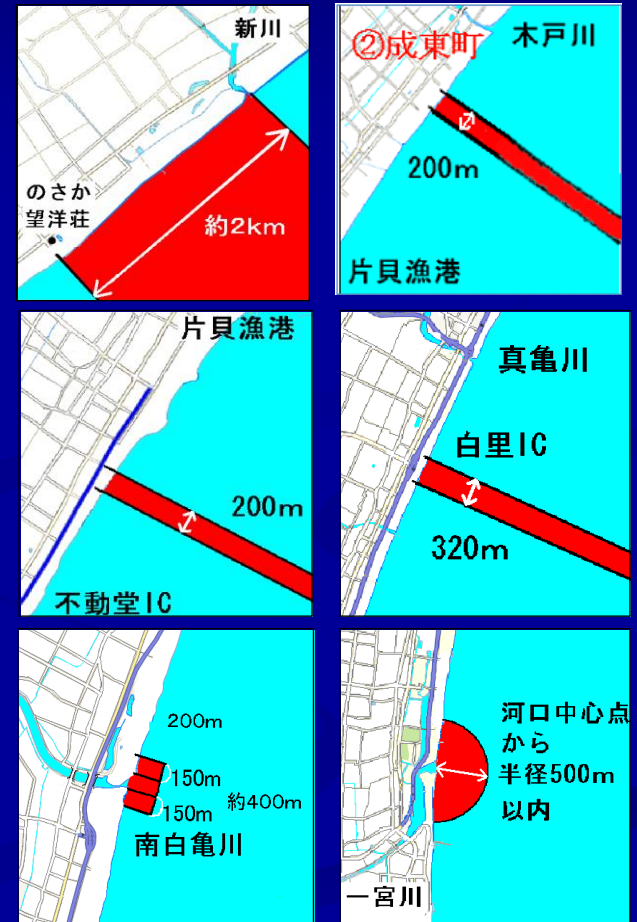


図10 ハマグリ資源保護区域

# 新たな漁業秩序づくり

- 腰カッターの資源管理ルールの実行
- ハマグリ成熟サイズの知見(水産総合研究センター)  
成熟最小サイズは殻長3cm



平成22年4月に千葉県海面漁業調整規則(体長等の制限)が変更  
ハマグリ採捕制限サイズ：殻長5cm以下 → 3cm以下



他県と同様の資源利用が可能になった

# 資源管理の実践と 新たな漁業秩序づくりの効果

- 貝桁網船団の漁獲管理
  - ・共同操業(プール制)
  - ・母貝場の造成
- 小型貝保護の強化
  - ・腰カッター採捕期間の統一
  - ・資源保護区域の設置



水揚量(H24)は前年の約4倍に！

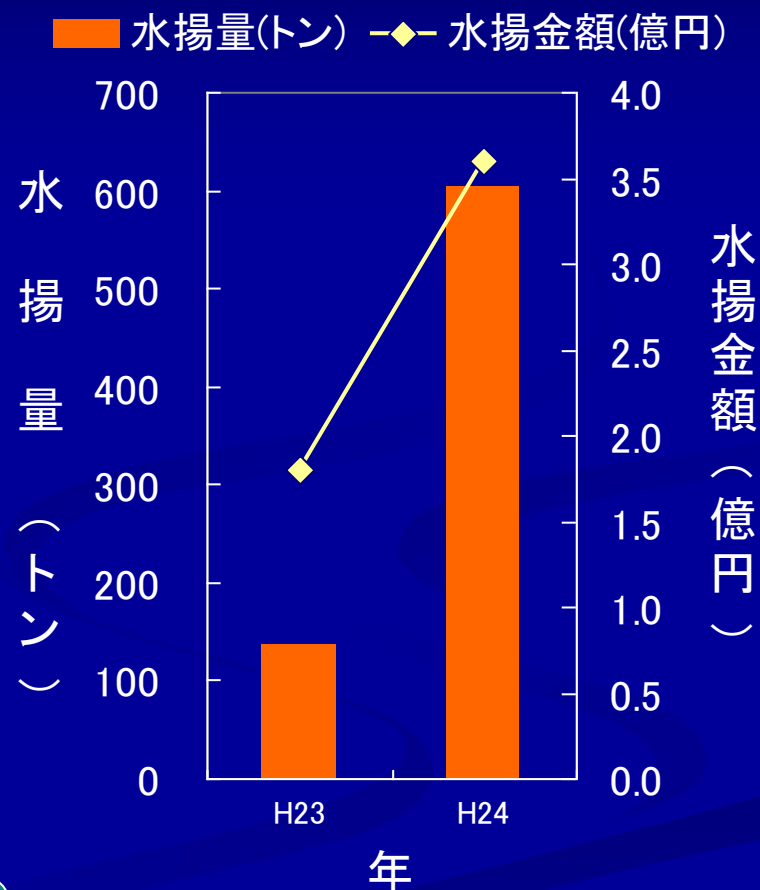


図11 ハマグリ水揚量  
(片貝漁港)

# 小型貝の沖出し放流

- 小型貝は安く取引（300～500円/kg）
- 大きくなると価格アップ（1,000～2,000円/kg）

もったいないので、小型貝の沖出し放流を実施

表3 小型貝の沖出し放流(平成24年度)

船団名	放流日	放流量	
長生	6月 3日	1,000kg	(61千個)
白里	10月30日	400kg	(23千個)
九十九里	6月 5日	1,000kg	(61千個)
成東	7月 4日, 5日	550kg	(34千個)
蓮沼	6月17日	375kg	(23千個)
横芝	7月 5日	420kg	(26千個)
計		3,745kg	(228千個)

# 小型貝の沖出し放流

## 【放流の状況】

- 放流貝の一部に標識
- 夏場の波の穏やかな日
- 放流場所の水深は約3m



図12 放流貝の標識付け



図13 放流場所の様子

# 小型貝の沖出し放流

## 【放流効果の推定】

- ・今のところ、標識貝の再捕報告なし
- ・翌日、浜に打ち上げられなかったもので、無事定着
- ・生残率を0.8と仮定すると、1年後に420万円、2年後に942万円となる試算

表4 小型貝の沖出し放流効果の推定

	個体数 (千個)	生残率	平均重量 (kg/個)	単価 (円/kg)	推定漁獲 金額(万円)	購入費 (万円)	経済効果 (万円)
1年後	204	0.8	0.034	1,000	555	135	420
2年後	204	0.8×0.8	0.055	1,500	1,077	135	942

# 資源管理ルールへの働きかけ

春先、ハマグリを目当てに、  
波打ち際へ大勢の人が来る！



- 新しい資源管理ルールの周知
- 漁場監視での声かけ



図14 浜の様子(H23.5.22)



図15 波打ち際の様子 20

# 資源管理ルールのお働きかけ

## ■ 市町村の広報誌でのお願い

ハマグリを採らないで！

水産資源の保護のため、ハマグリを採ることはやめましょう。

九十九里浜には、全域に漁業権が設定されており、一般の方は年間を通してハマグリを採捕することが出来ません。ハマグリなどの貝類は、漁業協同組合が資源・漁場の管理を行っています。

☎ 九十九里漁業協同組合

千葉県銚子水産事務所

☎ 0479(22)8397

☎ (76)6171

図16 広報さんむ(H24年4月号)

浜で注意をすると・・・

- ・ 昔から採っている
- ・ 海のは、みんなのもの



文句を言う人には、説明！

- ・ 放流等で漁場を管理
- ・ 漁業者の生活に大切な資源

# 波及効果

- 資源管理の強化したことで、ハマグリ資源が増加し、貝桁網の水揚金額の増加で、漁業経営が安定化
- 腰カッター採捕期間の統一により、期間外の採捕は非常に目立つので、密漁防止効果があった
- 腰カッター漁具検査を実施し、合格タグをつけたら、採捕者の資源管理意識が高まった

# 今後の課題

- 「九十九里地はまぐり」の市場シェア拡大と価格維持のバランスをとること
- ゴールデンウィークを中心に、大勢の地元住民や観光客にハマグリを採られる問題が継続中



- ① 不安定な二枚貝の資源動向を見ながら、資源管理を継続
- ② 地元の市町村や県とともに、海面利用のあり方の検討を進める



ご 静 聴  
ありがとうございました